

2022
6月

Sasaiレポ

発行/佐佐井株式会社
北九州市小倉南区上曽根新町 2-25
☎093-472-1335
FAX 093-472-1790
http://www.bf331.com

日清製粉G「食料インフレ」と戦う

日清製粉グループ本社の社長が6月、約5年ぶりに交代する。新社長に就任する滝原賢二・常務執行役員（56）は日本経済新聞の取材に応じ、「今年1年は食料インフレとの戦いだ」と強調。値上げや高付加価値商品の投入で原材料高への対応を進める考えを示した。

「小麦粉は需要が大きく減る事業ではないが、この2年は新型コロナウイルスの影響もあり需要が減少している。需要減に対しては新しい食べ方や新製品の提案で、できる限り新たな需要を開拓していきたい」

「小麦粉では全粒粉や国産小麦などの提案をしている。2020年に業務提携した全国農業協同組合連合会（JA 全農）と新しい小麦の研究も進めている」

「日清製粉ウェルナの海外事業は基本的には日本向けの生産工場が始まりだった。その中で（パンなどに使う）プレミックス事業は中国やタイ、ベトナムなどで現地で生産・販売しており今後強化していく。パスタやパスタソースも海外拠点を通じた現地販売を進める。」

—日経 MJ2022.4.4—

チョコ油脂原料、一時7割超高

ウクライナ情勢で供給不安

チョコレートに原料高の波が押し寄せている。油脂に用いるヒマワリ油の価格がロシアのウクライナ侵攻による供給不安で高騰している。両国のヒマワリ油は世界輸出量の7割を超え、世界への影響が広がりそうだ。

ヒマワリ油は世界生産の6割近くをウクライナとロシアが占める。20～21ヒマワリ油年度（20年9月～21年8月）の輸出量は両国合計で852万トント、7割を超えるシェアを持つ。危機を受けて、米農務省は4月8日発表の需給報告でウクライナの21～22ヒマワリ油年度の生産量・輸出量見通しをそれぞれ従来よりも1割強引き下げた。

日本が輸入するヒマワリ油類（紅花油を含む）に占めるウクライナ産とロシア産の割合は21年で計3割程度。供給不安が長引けば、他国産の引き合いが強まって輸入価格全体を押し上げる可能性がある。

ココアバターやココアパウダーの原料となるカカオ豆も値上がり傾向にある。国際価格指標のロンドン先物（第2限月）は4月11日に一時1トント1839銭と約2カ月ぶりの高値をつけた。

—日経 MJ2022.5.8—

トヨタ実証都市と連携 人呼ぶ

トヨタ自動車の未来型実証都市「ウーブン・シティ」の建設予定地がある静岡県裾野市は、周辺整備に関する2022年度から31年度までの10カ年の基本計画案をまとめた。

実証都市の建設予定地（トヨタ自動車東日本の旧東富士工場跡地）の最寄り駅、JR御殿場線岩波駅の周辺に広がる都市機能誘導区域（約32万9000平方メートル）を中心に開発。これまで主に工業的な用途で使われてきた市北部を観光や居住にも対応する街に変える。

市内に人や企業の転入が増える可能性を見据え、広域では市北部を4つのゾーンに分けて職住近接の街を目指す。「実証実験都市ゾーン」「都市機能誘導ゾーン」に加えて、事務所や工場が集まる実証都市南側の「産業ゾーン」、産業ゾーンを囲む「未来型住居ゾーン」を設ける。未来型住居ゾーンには市が造成した100区画の住宅地「ミライエート御宿」を含み、既存の公共交通に代わる

自動運転などの移動手段を早期に導入する考えだ。

ウーブン・シティはトヨタ自動車が20年1月にコンセプトを発表した未来型実証都市で、21年2月に着工した。第1期の開業時期は24～25年とされ、面積5万平方メートルに将来的には2000人以上が居住する見込みだ。

—日経 MJ2022.4.4—

